

# 請願・陳情参考資料

平成21年6月8日

教育委員会

陳情（継続）

受理番号 (受理年月日)	所管	件名及び提出者	現状と県の取組状況															
21年-6 (21.2.19)	教育	<p>平成23年度以降の境高等学校の1学級減の再検討を求めることについて</p> <p>鳥取県立境高等学校 PTA会長 阿部英治 同窓会長 岡空晴夫</p>	<p>県教育委員会としては、公立・私立の比率や、普通学科・専門学科等の比率、県内各地域のバランスなどを踏まえつつ、長期的な視点に立って、各学校の学級減を計画的に実施している。</p> <p>その際、特に各地域の中学校卒業生数の減少の状況に留意しなければならないと考えており、この点から見て、他地域と比べても境港市内の県立高等学校の募集定員は、境港市の中学校卒業見込者数に比べ大幅に多い状況である。</p> <table border="1" data-bbox="1086 534 2004 742"> <tr> <td>平成23年度 卒業見込者数</td> <td>341人</td> </tr> <tr> <td>募集定員（現行どおり）</td> <td>468人（1.37倍）</td> </tr> <tr> <td>〃（2学級減した場合）</td> <td>390人（1.14倍）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">※県全体の卒業見込者数に対する募集定員比率（0.77倍）</td> </tr> </table> <p>また、境港市内の県立高等学校募集定員の、通学圏域の中学校卒業見込者数に対する割合は、西部地域全体に比べ高くなっている。（他地域は先行して学級減を実施済みのため。）</p> <table border="1" data-bbox="1086 877 2004 1029"> <tr> <td>平成23年度 学級減しない場合</td> <td>87.5%</td> </tr> <tr> <td>2学級減した場合</td> <td>72.9%</td> </tr> <tr> <td>西部地区全体の比率</td> <td>72.7%</td> </tr> </table> <p>なお、平成23年度については既にパブリックコメントも募って学級減で対応する方針としている。</p> <p>こうしたことから、現時点では平成23年度の境高等学校の1学級減については、計画通り行うこととしている。</p> <p>また、陳情のとおり、少子化による生徒減に対し、学級定員を減らすことにより対応した場合、かなりの財政負担が必要（単県）となる。</p> <table border="1" data-bbox="1086 1324 2094 1476"> <tr> <td>普通科を38人学級、専門学科を36人学級とすると、平成24年度には、さらに教員が14人、年間約1億1千2百万円の負担増</td> </tr> </table> <p>こうしたことから、学級定員減での対応は難しいと考える。</p>	平成23年度 卒業見込者数	341人	募集定員（現行どおり）	468人（1.37倍）	〃（2学級減した場合）	390人（1.14倍）	※県全体の卒業見込者数に対する募集定員比率（0.77倍）		平成23年度 学級減しない場合	87.5%	2学級減した場合	72.9%	西部地区全体の比率	72.7%	普通科を38人学級、専門学科を36人学級とすると、平成24年度には、さらに教員が14人、年間約1億1千2百万円の負担増
平成23年度 卒業見込者数	341人																	
募集定員（現行どおり）	468人（1.37倍）																	
〃（2学級減した場合）	390人（1.14倍）																	
※県全体の卒業見込者数に対する募集定員比率（0.77倍）																		
平成23年度 学級減しない場合	87.5%																	
2学級減した場合	72.9%																	
西部地区全体の比率	72.7%																	
普通科を38人学級、専門学科を36人学級とすると、平成24年度には、さらに教員が14人、年間約1億1千2百万円の負担増																		

受理番号 (受理年月日)	所管	件名及び提出者	現状と県の取組状況																
21年-7 (21.3.18)	教育	<p>平成23年度における県立高校の学級減について再検討を 求めることについて</p> <p>境港市 境港市長 中村 勝治</p>	<p>県教育委員会としては、公立・私立の比率や、普通学科・専門学科等の比率、県内各地域のバランスなどを踏まえつつ、長期的な視点に立って、各学校の学級減を計画的に実施している。</p> <p>その際、特に各地域の中学校卒業生数の減少の状況に留意しなければならないと考えており、この点から見て、他地域と比べても境港市内の県立高等学校の募集定員は、境港市の中学校卒業見込者数に比べ大幅に多い状況である。</p> <table border="1" data-bbox="1086 526 2004 734"> <tr> <td>平成23年度 卒業見込者数</td> <td>341人</td> </tr> <tr> <td>募集定員（現行どおり）</td> <td>468人（1.37倍）</td> </tr> <tr> <td>〃（2学級減した場合）</td> <td>390人（1.14倍）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">※県全体の卒業見込者数に対する募集定員比率（0.77倍）</td> </tr> </table> <p>また、境港市内の県立高等学校募集定員の、通学圏域の中学校卒業見込者数に対する割合は、西部地域全体に比べ高くなっている。（他地域は先行して学級減を実施済みのため。）</p> <table border="1" data-bbox="1086 869 2004 1029"> <tr> <td>平成23年度 学級減しない場合</td> <td>87.5%</td> </tr> <tr> <td>2学級減した場合</td> <td>72.9%</td> </tr> <tr> <td>西部地区全体の比率</td> <td>72.7%</td> </tr> </table> <p>なお、平成23年度については既にパブリックコメントも募って学級減で対応する方針としている。</p> <p>こうしたことから、現時点では平成23年度の境地区の県立高校の学級減については、計画通り行うこととしている。</p> <p>また、陳情のとおり、少子化による生徒減に対し、学級定員を減らすことにより対応した場合、かなりの財政負担が必要（単県）となる。</p> <table border="1" data-bbox="1086 1324 2094 1484"> <tr> <td>普通科を38人学級、専門学科を36人学級とすると、</td> </tr> <tr> <td>平成24年度には、さらに教員が14人、年間約1億1千2百万円の負担増</td> </tr> </table> <p>こうしたことから、学級定員減での対応は難しいと考える。</p>	平成23年度 卒業見込者数	341人	募集定員（現行どおり）	468人（1.37倍）	〃（2学級減した場合）	390人（1.14倍）	※県全体の卒業見込者数に対する募集定員比率（0.77倍）		平成23年度 学級減しない場合	87.5%	2学級減した場合	72.9%	西部地区全体の比率	72.7%	普通科を38人学級、専門学科を36人学級とすると、	平成24年度には、さらに教員が14人、年間約1億1千2百万円の負担増
平成23年度 卒業見込者数	341人																		
募集定員（現行どおり）	468人（1.37倍）																		
〃（2学級減した場合）	390人（1.14倍）																		
※県全体の卒業見込者数に対する募集定員比率（0.77倍）																			
平成23年度 学級減しない場合	87.5%																		
2学級減した場合	72.9%																		
西部地区全体の比率	72.7%																		
普通科を38人学級、専門学科を36人学級とすると、																			
平成24年度には、さらに教員が14人、年間約1億1千2百万円の負担増																			

受理番号 (受理年月日)	所管	件名及び提出者	現状と県の取組状況														
21年-11 (21.3.23)	教育	<p>平成23年度以降の県立高校の学級減について再検討を求めることについて</p> <p>境港市中学校PTA連合会 会長 築谷雅人</p> <p>境港総合技術高等学校PTA 会長 築谷敏雄</p> <p>境高等学校PTA 会長 阿部英治</p>	<p>県教育委員会としては、公立・私立の比率や、普通学科・専門学科等の比率、県内各地域のバランスなどを踏まえつつ、長期的な視点に立って、各学校の学級減を計画的に実施している。</p> <p>その際、特に各地域の中学校卒業生数の減少の状況に留意しなければならないと考えており、この点から見て、他地域と比べても境港市内の県立高等学校の募集定員は、境港市の中学校卒業見込者数に比べ大幅に多い状況である。</p> <table border="1" data-bbox="1086 526 2004 726"> <tr> <td>平成23年度 卒業見込者数</td> <td>341人</td> </tr> <tr> <td>募集定員 (現行どおり)</td> <td>468人 (1.37倍)</td> </tr> <tr> <td>〃 (2学級減した場合)</td> <td>390人 (1.14倍)</td> </tr> </table> <p>※県全体の卒業見込者数に対する募集定員比率 (0.77倍)</p> <p>また、境港市内の県立高等学校募集定員の、通学圏域の中学校卒業見込者数に対する割合は、西部地区全体に比べ高くなっている。(他地域は先行して学級減を実施済みのため。)</p> <table border="1" data-bbox="1086 869 2004 1029"> <tr> <td>平成23年度 学級減しない場合</td> <td>87.5%</td> </tr> <tr> <td>2学級減した場合</td> <td>72.9%</td> </tr> <tr> <td>西部地区全体の比率</td> <td>72.7%</td> </tr> </table> <p>なお、平成23年度については既にパブリックコメントも募って学級減で対応する方針としている。</p> <p>こうしたことから、現時点では平成23年度の境地区の県立高校の学級減については、計画通り行うこととしている。</p> <p>また、陳情のとおり、少子化による生徒減に対し、学級定員を減らすことにより対応した場合、かなりの財政負担が必要(単県)となる。</p> <table border="1" data-bbox="1086 1316 2094 1476"> <tr> <td>普通科を38人学級、専門学科を36人学級とすると、</td> </tr> <tr> <td>平成24年度には、さらに教員が14人、年間約1億1千2百万円の負担増</td> </tr> </table> <p>こうしたことから、学級定員減での対応は難しいと考える。</p>	平成23年度 卒業見込者数	341人	募集定員 (現行どおり)	468人 (1.37倍)	〃 (2学級減した場合)	390人 (1.14倍)	平成23年度 学級減しない場合	87.5%	2学級減した場合	72.9%	西部地区全体の比率	72.7%	普通科を38人学級、専門学科を36人学級とすると、	平成24年度には、さらに教員が14人、年間約1億1千2百万円の負担増
平成23年度 卒業見込者数	341人																
募集定員 (現行どおり)	468人 (1.37倍)																
〃 (2学級減した場合)	390人 (1.14倍)																
平成23年度 学級減しない場合	87.5%																
2学級減した場合	72.9%																
西部地区全体の比率	72.7%																
普通科を38人学級、専門学科を36人学級とすると、																	
平成24年度には、さらに教員が14人、年間約1億1千2百万円の負担増																	